



山梨学院大学

# 経営ナビゲーション —ビジネス革新への航海図—

No. 24-4

平成24年12月12日発行

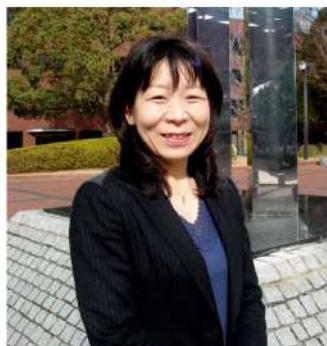
山梨中央銀行  
法人推進室

甲府市丸の内 1-20-8

山梨中央銀行は、大学等の研究機関が有する知的資産とビジネスの現場とを結びつけ、企業経営のイノベーションや事業機会の創出を支援するリエゾン（橋渡し）活動に取り組んでいます。

本リポートでは山梨学院大学の先生方と、その研究内容を紹介していきます。中小企業のみなさまが肌で感じとったビジネスの現場の空気と、気鋭の研究者たちが取り組むアカデミズムの最前線が出遭うこのリポートが、新たなビジネスの「創発(emergence)」の場となることを期待いたします。

＜第8回＞



地域を作るキーワード  
「スポーツ」の可能性

長倉 富貴 先生

(経営情報学部 准教授)

《要点》

- ・「スポーツ」とは「競技」のことだけを指すものではなく、「見るスポーツ」、「するスポーツ」、「ささえる（創る）スポーツ」といったようにスポーツとの関わり方も多様。
- ・スポーツビジネスの本家アメリカでは、スポーツ産業は産業ランキングで10位に入っていて自動車産業、教育産業よりも大きな産業になっている。
- ・スポーツマネジメントとは、「スポーツの価値を最大限に高めるための組織的な営み」と定義され、「サービス材」から派生する様々な価値を創造し高めるための企画や工夫、運営のことである。
- ・山梨県内で行われる様々なスポーツの試合や、スポーツに関するイベントなどを支援することを通じて地域の人々が交流し、また社会との接点を作れるような仕組みを作りたい。

■どのような分野を研究されていますか？

スポーツマネジメントという分野を研究しています。ロンドンオリンピックや夏の高校野球などで山梨県勢が活躍し、またヴァンフォーレ甲府の活躍などで、すべての世代にスポーツへの関心が高まっていますが、「スポーツ」とは実は「競技」のことだけを指すものではありません。「見るスポーツ」、「するスポーツ」、「ささえる（創る）スポーツ」といったようにスポーツとの関わり方も多様です。スポーツを産業として見てみると、スポーツ産業は従来、学校教育の「体育」で使われる体操着を提供する「スポーツ用品の製造・販

売業」、顧客にスポーツ施設を「場」として提供する「スポーツ施設産業」、新聞、雑誌など活字メディアを中心とした「スポーツ情報産業」の発展から大きくなってきたもので、現在ではスポーツ活動の実践やスポーツ観戦、スポーツツーリズムなどスポーツ産業の領域はどんどん広がっています。スポーツビジネスの本家アメリカでは、スポーツ産業は産業ランキングで10位に入っていて自動車産業、教育産業よりも大きな産業なのです。また健康に対する意識も高まっていて、簡単な運動・エクササイズやウォーキングなど日常的に体を動かす機会もかなり増えています。

スポーツマネジメントとは、「スポーツの価値を最大限に高めるための組織的な営み」と定義されますが、決してお金を儲けるためだけの話ではありません。スポーツという「サービス材」から派生する様々な価値を創造し高めるための企画や工夫、運営がスポーツマネジメントです。具体的に言えば、より魅力的なプロスポーツチームを育てることで感動を創出し、地域に活力が生まれる。仲間と一緒にスポーツを楽しめる場所や機会をつくることで住民や会員が心身ともに健康になる、交流が生まれる。これがスポーツマネジメントです。また、最近では「スポーツ」活動を通した居場所づくり、世代間交流や地域振興など、スポーツマネジメントはスポーツ産業のみならず、多くの分野で応用が可能です。

#### ■具体的にどのようなことを実践されているのですか？

現在は、学生を中心に、「ヴァンフォーレ甲府」（以下、「VFK」という）や、バスケットボールチーム「クイーンビーズ」、体育協会等、県内のスポーツ関連団体主催の大会やイベントに学生を運営スタッフとして派遣しています。学生にとっては生の「スポーツ現場」を「自ら感じて学ぶ」機会になっています。講義で得た基礎知識に加えて、実際のスポーツビジネスのフィールドに足を運ぶことで、観客数を増員させるにはどうすれば良いのか、イベントの参加人数を増やすにはどうすれば良いのかなど、学生の視点で考え VFKやスポーツ関連団体への具体的な提案を考えさせます。また、来年度からインターンシップのカリキュラムを見直し、今までの短期集中完結型から、中長期的なスパンで受け入れ団体と双方向的にやりとりしながら協働事業を興していくような形に改変しました。地域にむけて若い目線での企画やアイディアを発信していければと考えています。いつもご協力いただいているVFKはクラブの運営方法や、地域との関わり方がとても理想的で、学生にとって多くのことを吸収できる絶好の場を提供していただいている。

#### ■「ヴァンフォーレ甲府」が理想的という意味を具体的に教えてください。

第一に、VFK側の対応が丁寧であり、サポーターをとても大切にしています。スタッフからサポーターへの感謝の心が強く、サポーターから運営側への信頼も厚いため、相乗効果でお互いに気遣い、最善策を模索しながらチームを作り上げています。サポーターがスタッフとして運営に携わることも少なくありません。また、大口のスポンサーではなく、小口のスポンサーがたくさんいるということもポイントです。少数の大企業の経営状況に左右されることは比較的少なく、小口のスポンサーが多いということは、VFKはそれだけ地域のたくさんの人たちに支えられていると言えます。私共も調査に協力しますが、毎年行われるJリーグの観戦者調査でも評価が高く、地域に根差した健全なクラブであることが証明されています。

### ■学生によるサポート以外にどのようなことをされていますか？

現在、山梨学院大学では「スポーツマネジメント研究室」を開設し地域スポーツコーディネーターを配置し、学生を県内の様々なスポーツイベントや大会に派遣したり、スポーツ系情報の提供、資格取得支援などを行っています。学生独自のイベントを出前することもあります。これを将来的には県内の他大学にも広げ、一般の住民の方にも参加していた大いに山梨のスポーツネットワークの拠点にしたいと考えています。これは、スポーツを提供する側、受ける側に拘わらず、スポーツに興味のある人達を組織し、VFKだけでなく様々なスポーツイベントや大会にボランティアの人たちを派遣したり、スポーツ全般の支援や、教養講座、スポーツ教室の開催や、スポーツに関する出前講座などを定期的に開催できたらと考えています。

具体的にいうとAED講習会を開催し、講習を受けた人達を各市町村などで行われているマラソン大会、クロスカントリー大会などにボランティア派遣することなどは、すぐに行いたいと思います。現在、市町村や体育協会等でAED講習を受けた方達はかなりいるはずなのですが、地域のマラソン大会などの現場ではAEDスタッフの確保が難しいという状況があります。こうしたニーズとニーズをつなぐような役割も果たせたらと思います。

### ■企業との連携で取組みたいと思っていることはありますか？

地域の中小企業と連携して、「山梨スポーツサポートプログラム」（仮称）を形成したいと考えています。現在はまだ具体的なスキームは構築できていませんが、山梨県内で行われる様々なスポーツの試合や、スポーツに関する講習会・イベントなどを支援することを通じて地域の人々が交流し、また社会との接点を作れるような仕組みを作りたいと考えています。そのためにも、本プログラムに協賛し、投資していただけるような地域の中小企業の方を探しています。

スポーツには、スポーツ本来の知識に加えて、経営や営業、流通など様々な知識が必要となります。だからこそ、そこから生まれるマッチングにも多様なものが期待されます。例えば、スポーツと観光を組み合わせた「スポーツツーリズム」の形成や、山梨学院大学の著名なスポーツ選手と地域の人々が触れ合う機会の創造、地域に点在しているスポーツチームをまとめスポーツの輪を形成することでスポーツにより地域を活性化させ、ビジネスとさせることもできます。

スポーツを軸に地域を活性化させるため、「山梨スポーツサポートプログラム」について興味のある方には是非ご協力いただきたいと思います。

“スポーツ”についてご相談がある方は、

山梨中央銀行 営業統括部 法人推進室

TEL：055-224-1091まで、お気軽にご連絡・ご相談ください。